

審議の着眼点

(1) 総論

少子高齢化に伴う人口減少、IT化の進展やAIの導入などによる産業構造の変化を踏まえながら、ものづくり産業の生産現場を支える人材育成を担っており、富県宮城の実現にとって重要である「高等技術専門校」の「今後のあるべき姿や役割」をどう考えるか。

(2) 産業界のニーズに即した訓練科目と関係機関との役割分担

産業界や地域のニーズを踏まえた高等技術専門校の訓練科目を、どう考えるか。また、民間訓練機関やポリテクセンターとの役割分担・連携をどのように考えるか。

(3) 新たな対象者への訓練対応

我が国で急速に増加している「外国人」に対する職業訓練については、ニーズの見極め、在留資格や言葉の問題、就職先となる企業の開拓など様々な課題がある。また現在のところ、「障害者訓練」は宮城障害者職業能力開発校のみで実施している。

これらの対象者に係る訓練について、高等技術専門校での実施をどう考えるか。

(4) 適正な校数や地域配置

訓練の効果的・効率的な実施を図るため、適正な校数をどう考えるか。併せて、高校新卒者の推移や公共交通網の整備状況等を踏まえ、適正な地域配置をどう考えるか。